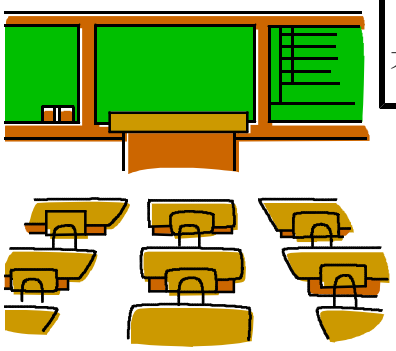
	平成２１年度 成　　果	平成２２年度への 課　　題
１学期自己評価 ２学期自己評価	**教育目標「自ら学び心豊かでたくましい生徒の育成」**	
	落ち着いた雰囲気で、大多数の生徒が楽しいと感じる学校生活が営まれた。 各学年部が協力して生徒の健全な育成に向け努力した。	挨拶・返事等個々の生徒の元気やたくましさという点に関しては今後の課題。日々の学校生活の中で全校体制での取り組みが必要。
生徒授業評価 保護者アンケート 学校評議員会	**学　習　指　導　・　職　員　研　修**	
	めあてを明示した授業や「練り合い」の時間を大切にする取り組み，ＴＴ学習の拡大が進み，生徒の学習への意欲の向上が見られた。 特別支援教育への職員間での関心が高まり、研究の方向性も見えつつある。	「練り合い」(考えを深め合う活動)に関しては課題設定や教師の指導技術、生徒の伝え合う力・意欲という点が課題。 情緒障害生徒への効果的な指導法研究と通常学級在籍の特別な支援を必要とする生徒への支援方法が課題。
全国学力学習状況調査 県学習状況調査 校内研究会 校内研修 各行事反省	**生　徒　指　導　・　不　登　校　生　徒　対　応**	
	生徒指導面では,毎月の「心と体の健康チェック」を参考に日常的なきめ細かで生徒に寄り添う指導を行った。 挨拶・服装・言葉使い等中学生らしい爽やかさである。 養護教諭・学級担任・保護者の連携で２年・３年の支援を要した女子の立ち直りが見られた。	男女とも人間関係づくりに難儀する生徒が見られた。意図的ではないが、周囲にストレスを与える生徒への指導や、個々の悩みを抱えた生徒への対応が課題。 ２年女子と男子が１学期後半、２学期後半に新たに不登校状態に。学年部が保護者と連携し対応中。
	そ　の　他　・　保　護　者　・　地　域	
	保護者のみならず、地域の大きな協力が得られている。	厳しい社会情勢もあり、今後経済面で心配が予想される保護者もいる。



方　策

- ○　学校・生徒の実態にあった教育課程編成・行事の見直し
- ○　保護者・地域とのさらなる連携と教育力の活用
- ○　学習指導・生徒指導の両面からのきめ細かな個への指導
- ○　生徒の向上に生きる職員の研修の充実